

## 市民との意見交換報告書

- 実施日 令和6年5月9日（木） 10:00～12:00
- 実施場所 庁舎5階 第1委員会室
- 議題 オーガニックビレッジ宣言後の予算立てについて
- 出席者 〈議会〉 小紫委員長、廣畑副委員長、小川委員、岸本委員  
大畑委員、大城戸委員、橋本委員、高瀬議長  
〈加東市オーガニックビレッジを推進する会〉  
松本宜住（代表）、竹内賢樹、出井利之、藤井義文、津田博基  
岸本高志、山田悦治、ほか1名

## ■発言要旨

（「加東市のオーガニックビレッジを推進する会」の活動の紹介）

## 【出席者】

令和5年度より農林水産省が実施している「みどりの食料システム戦略推進交付金」の有機農業産地づくり推進事業交付金を活用した事業策定を行い、その取組内容については農林水産省、兵庫県農林水産関係ホームページ等によって情報公開されている。

交付金は、初年度（令和5年度）の上限が1000万円であったが、加東市ではその交付金が十分に活用されているとは言い難い。交付期限が令和7年度までとなっており、それを有効活用した事業策定を促す必要があると考え、令和6年2月に有機農業の推進を望む有志が独自の情報ネットワークを作り、「加東市のオーガニックビレッジを推進する会」として活動を始めた。会員数については16名（全て加東市在住）。現在に至るまでの活動内容は以下の通り。

令和6年2月10日 加東市内の有志が集まって初会合

（情報交換並びに今後の活動について協議）

3月 5日 加東市農政課と意見交換会

（加東市のオーガニックビレッジ宣言に向けての31項目を提案）

活動協議

3月 8日 社福祉センターにて「有機農業について自由に語ろう会」

（広く一般市民の方に現状等を周知）

3月26日 オーガニックビレッジ先進市実態調査（京都府亀岡市役所ほか）

（オーガニックビレッジ宣言をするに至った経緯等を調査）

4月20日 滝野公民館にて協議（今後の活動など）

（意見交換）

## 【小川委員】

31項目の提案をしたことで行政の反応は何かあったか？

## 【出席者】

提案事項7「学校給食関係者への働きかけ」については、「有機農業者を市内全ての学校へ派

遣し、学校農園などでの有機農業の出前授業についてはできるかもしれない」との意見をもらっている。これ以外の提案事項に対する回答はもらっていない。

亀岡市を視察し、「令和4年度亀岡市有機農業推進協議会収支決算書」を見せてもらった。一番額が大きいのは有機農業推進実施計画策定支援業務等委託費で、時間と労力がかかる調査をできるだけ業者にやってもらい、計画策定も含めて進めている。うまく交付金を利用した形で進めていくのがポイントであるということ、地域計画の策定で人手が足りないなら外部の事業者へ委託できる部分は任せて、地域それぞれの実態に合わせた計画策定をしていく道筋がいいのではとアドバイスももらった。これらを参考にして3月5日に市へ提案事項を提出した。令和7年度の交付金獲得に向けて加東市オーガニック関連予算案として、再考したものを今回資料として提出している。

#### 【出席者】

国がみどりの食料システム戦略ということでは有機農業を推進するため、2050年には耕地面積に占める有機農業の取組面積を25%にするという方針を出しており、兵庫県や市もこれに基づいて動かないといけない。今日一番訴えたいことは令和7年度の交付金600万円を活用できるように、加東市の有機農業を推進する計画を立てるための協力をお願いしたい。

#### 【出席者】

加東市も有機農業産地づくり推進に手を挙げているが、オーガニックビレッジ宣言ができていない、検討会もやっていないことに不満を持っている。

市と話し合いをしたが前向きな回答を得られなかったので、議員の方々に話を聞いてもらおうということになった。

有機農業は、農薬とか化学肥料を使わないということで環境に非常に優しいということ、その農作物を食べる人たちの健康にも非常に有意義ということで、全国的にも今、有機農作物を使った学校給食、特に農薬の影響を受けやすい子供たちの健康に配慮した給食を提供しているとしており、加東市でも同じようにやっていただきたい。

#### 【出席者】

市との意見交換会に参加したが、担当課の職員はオーガニックビレッジについての理解度が低いと思う。市民全体に理解してもらい、安全安心であると理解してもらうために、どういふふうに進めていくのかを決めていただきたい。令和7年度の交付金600万円を活用するための期限は目の前に来ていると思うので、早く取り組みたいのが私たちの願いです。

#### 【大畑委員】

市は、有機農業の推進についてくる農家がどれくらいあるのか不安があるのではないかと。計画は、お金さえ払えばコンサルタントが作ってくれる。ところが、計画を作っても協力する農家がなければ、いくら国の交付金とはいえ600万円というお金が無駄になる。そのあたりを懸念して市はなかなか一歩が踏み出せないのではないかと。

化学肥料や農薬を使うと農地がどんどん痩せて駄目になっていく、駄目になるからまた化成肥料、農薬を使う、という悪循環になることはわかりきっているが、それをするしか仕方がない状況になっていると思う。10年前の農業と比べて今の農業はまた一段と環境が悪くなっている。カメムシの被害で米の生産量が大幅に減少してしまい、農薬を使うしかない状況になっているので、無農薬が良いのは分かっているけど踏み出せない。また、こういったカメムシ被害などもあるので、市も「無農薬をやりなさい、農薬を使わないでくれ」とは言えないのではないか。

**【出席者】**

特A地区で山田錦をオーガニックで栽培しているが、ほぼ特上で出荷できている。オーガニックだからではないか、化学肥料・農薬を使う方がカメムシが喜ぶのではないかという思いを実地体験で持っている。

**【出席者】**

有機農業を始めてメダカなどの生き物がすごく増えてきて、これを殺すわけにはいかないという思いと、以前、動力散布機にナイアガラホースを付けて農薬を散布していた際に、妻が農薬まみれになる姿を見て非常に酷だなと思った。変わったことをしていると言われるが、私は元々の、昔のやり方をしている。本当に変わっているのはあなた方だと、私は変えていないという思いもあって続けている。

私の地区の若い人たちに「有機農業をしないか」と声をかけたとき、認定農業者になってくれた人もいる。若い人たちに声をかけたとき、「有機農業は素晴らしい」という話だけでなく、それに伴うもの、「山田錦なら有機JAS認証を取れば6000円の奨励金が出る。そうすると少なくとも1万8000円から1万9000円ぐらいになるから頑張らないか」と。しかし、本当に売れるかどうか保証はないので、「ひょっとしたら2年も3年も苦勞するだけで終わるかも分からないよ」という話もしてきている。

有機農業は大変なように見えるが、いろいろな方法が全国的にされてきて、除草剤を使わなくても草が生えてこないとか、収穫量にそんなに影響がない程度に草を抑えることができるなど、それらの方法を使うと楽しいことがいっぱいある。有機農業をすれば、それを分かってくれる方が増えると思う。新規に就農しようという人は、少なくとも有機農業とか自然農業とか自然栽培に向いている。確かにカメムシは私も本当に困っており、有機農業で抑制できるとは言えない。ウンカは有機農業によって増えた生物が食べてくれるので大丈夫だが、カメムシは大きいので鳥やカマキリやカエルでないと食べないので、なかなか抑制できないと思う。それでも有機農業は少しずつ広がってきており、さらに広げていくために助けてもらいたい。

**【出席者】**

議員の皆さんのオーガニックに対する考えをお尋ねしたい。

### 【高瀬議長】

タオル一つをとっても、オーガニックの綿は農薬を使った綿よりも値段が倍以上高い。オーガニックは良いが、農家は後継者不足で耕作する人を先に探さないといけない。それと兼業農家が多く、有機栽培は当然手間もかかるため、オーガニックを進めるのは非常に難しい。市も農会長会で話をしており、農会長からも聞いている。大畑委員がおっしゃるとおり、それに踏み切ろうという農家が本当に何人いるのかと思う。

野菜は収穫量の確保が必要である。そしてオーガニック野菜はスーパーでも値段は高いため、いかに消費者に買ってもらうか、その辺のバランス的なことも農家には不安があると思う。

もう一点、この有機農業実施計画は最終年度で上限交付額が600万円であるが、非常に用途が限定されており制約がある。市として計画を作り、これに賛同してついてくる農家が50軒、100軒となっても、さらに何ヘクタールできるのかという面積の部分で不安はあると思う。

### 【出席者】

農林水産省の「オーガニックビレッジ創出に向けて」の市町村における取組で、「栽培技術の講習・技術の共有」という形でもこの交付金を使えると示されている。加東市であれば山田錦が特産品で、兵庫県も有機栽培の山田錦を作っていく後押しをしているのであれば、例えばカメムシに対してどういった作り方をしたら良いのかといった研究に対する取組も一つの手法であり、また色選機のリースやレンタルという形の助成もできるのではないかと考える。できないということよりも、どうしたらできるのかを考えてもらいたい。

### 【出席者】

全国的に先進的な豊岡市は、市長がリーダーシップをとっており、コウノトリと共生するため、有機栽培でないと土壌にいるコウノトリの餌がいなくなってしまうので、その栽培に取り組まれた。今ではかなり有機農業の面積も増え、学校給食も有機米でできるところまで進んだ。

千葉県いすみ市では有機農家がほとんどなかったが、市がリーダーシップをとって有機農業を進めていこうと、3年ほどかけて有機農家を増やして学校給食の全量を賄うことができるところまで増やした。

米の買取価格は非常に安いですが、子供たちの安全のために助成金を出し、ある程度有機米の買取価格を高くして学校給食として購入するという約束でどんどん増えている。価格を上乗せすれば有機に切り替えていこうとする農家も増えてくると思う。新規就農の若者は農業に興味をもっているが、興味があっても食べていけないと駄目。有機の野菜や米の販売で一定の売上があれば自営していけるので全国各地で増えてきている。有機農業が難しいからといって調査もできないし、計画も立てられていない状態なので、市にはまず一步踏み出してほしい。

### 【小川委員】

有機米、有機野菜が非常に良いというのは理解しているが市内で気運が高まっていない気がする。市の資料を見ても、有機農業の取組者は全農業者数に対して0.4%しかいない。もっ

と有機農業者が増えれば市も動かざるをえない。有志の方々が、研修会などをして有機農業に取り組む方を増やしていけば行政も動く気がする。有機農業をする方を増やす取組を行う考えはあるか。

#### 【出席者】

農業を始めて10年目だが、新規就農で国からも市からも助成をもらいながら、何とか独立できるようになった。そして、有機認証をとり有機野菜を出荷してきた。オーガニックビレッジ宣言をすることも踏まえて、どうしたら有機農業者が増えるところにたどり着くのか、試行錯誤しながら考えたが、売上を上げて生活できることが重要である。そのためには、一緒に思いを話し合える販売先を見つけることができれば、続けていくことは絶対可能だと私は思う。市外から、加東市に農業の魅力を感じて入ってきたいという農業従事者・専門者を増やす取組をしていく中で、オーガニックビレッジ宣言はいい取組だと思う。加東市へ来る新規就農のサポートの役割分担として、農地と住む場所については行政、作る有機農作物やその販売ルートを紹介については私たち民間業者という協力体制をつくり、有機農業推進の活動のために交付金の獲得・活用をしていけたら一番良いと個人的に思う。

昔の有機農業と違って現状では、化学合成ではない認められた微生物農薬があり、肥料もいろいろな物がある。いろいろな情報をもっている人もいれば知らない人もいるので、オーガニックビレッジ宣言に向けて助成金を獲得するに当たって、栽培の勉強をするグループなどの分科会をつくり同時進行で課題を1個ずつ潰していかないと5年、10年、50年かかってもなかなかできない。市と農家が全面的に協働で進んでいき、加東市で成功していけば、「ちょっと面白そうだから加東市に移住してみようか」や、「新規就農者で入ってみようか」とか、市内の農業者で兼業、専業の方も含め「何か面白そうなことをやっている、自分らも全部はようせんけど一部やってみようか」と気運が高まるように、市と一緒にやっていくのが一番ありがたい。

#### 【出席者】

亀岡市は、昔から「京の台所」として、聖護院大根などの様々な京野菜を作っているところである。京都市に近いということで移住される方も多く、有機の農業を始めたり、将来農業をやろうかという方もいるとのこと。加東市においても行政に協力してもらって、縁もゆかりもない方でも移住されて農業をするという事例が増えれば、農業の担い手不足の問題に関しても一筋の光になるのかなと思う。

もう一点はやっぱり出口戦略である。有機野菜を作ってもやはり買ってもらうところがなければ意味がない。できるだけ近くで買ってもらうことで、市内で生産したものを市内で流通させて消費する形がオーガニックビレッジの基本の考え方で、各地でオーガニックビレッジ宣言をして、学校給食に有機野菜を取り入れることに繋がっている。

加東市ではもち麦生産が軌道に乗り、生産量が増えてきている。基本的に出口である民間業者が買ってくれるから作れるわけだが、今の我々は、有機野菜は作るけれども近くで買ってくれないからなかなか増えないので、学校給食に全量とはいかなくとも、少しずつ増やしていく

取組が出口戦略になる。有機野菜に関して、保護者や子供たちへ理解を深めてもらうのは時間はかかるが、結局担い手不足の問題に対する一つの仕掛けにも繋がるのではないか。

#### 【出席者】

気になるのが次世代である。子供に安心安全な食材を食べさせたいという願いを持っているが、簡単には手に入らないということを問題にすべきで、それをどうしていくかを考えると、やはり市に協力してもらうことが必要で、それによって有機農家が増えてくると思う。小中学校などで安心安全な食材づくり、有機農業について話をさせてもらいたい。年齢的にも高くなってきていることもあり、自分の持っているノウハウを伝えていきたいという思いがある。加東市も具体的にオーガニックビレッジに取り組むことを前提として、農業関係にも力を注いでいく体制を整えるとともに令和7年度交付金の600万円を獲得できるよう協力してほしい。

#### 【高瀬議長】

道の駅とうじょうのコスモスの館では様々な野菜を販売して、5年連続1億円以上の売上を達成している。そこでは有機栽培の野菜はほとんど見ない。有機栽培の野菜だと値段が高くなって買ってもらえなくなるのではないかという不安があるからだと思うが、実際に大きな売上をあげており100人を超える方が登録をされているコスモス会に有機野菜を作って出荷してもらえないかなど、販路の相談をしてはどうか。

#### 【出席者】

コスモスの館に出荷しているが、有機JASのラベルを貼って出荷はしていない。ラベルの管理の規制が厳しく、朝の忙しい時間に品目、出荷先ごとに枚数の管理はできない。私の場合は化学肥料・化学農薬無使用栽培のラベルだけを貼っている。河高地区からとうじょう道の駅まで市内の端から端に行くのでガソリン代もかかるが、ある程度野菜は売れる。

有機農業をしたい理由は、今の子供が有機のお米や野菜を食べて大きくなっていけば、医療関係の国家予算が半分ぐらいになると言われているからで、今お母さんたちが気にしているのが子供の体への影響で、残留農薬の影響があるかもしれないと思われる。だから有機の野菜、米を学校給食で採用してほしいという要望が強いと考えている。

#### 【出席者】

加東市は有機農家が非常に少ないから、我々の方がもっと取組をして、仲間を増やさないという話は確かにそのとおりである。私たちもそういった努力をしていかないといけないし、実際にやっている。ただ、有機農業が成功している市町村は行政が主導している。行政や市長がオーガニックを頑張りますと宣言すれば、有機農業に参加する人も増えていく。千葉県いすみ市は有機農家が全く無かったが、3年から4年をかけて学校給食に有機米を100%提供できるところまで有機農家が増えた。市の努力が大きく、市長のリーダーシップや議会も含めて行政のリーダーシップが必要。愛媛県にはオーガニックビレッジ宣言をして有機農業をやっているという条例があるらしい。行政主導のもとに、みんなが一緒になって取り組み、どんど

ん増えていく、そういう事例がインターネットでも出ている。

加東市はオーガニック宣言をしますよと手を挙げていながらやられていない。全く土台や基盤がないのであれば、そこまでして手を挙げることもなかったのと思う。1000万円の交付金を獲得できるための手を挙げておきながら、実際には何もしていないことに私たちは非常に不満を持っている。

#### 【大畑委員】

平成25年頃を境に農業の環境・気候がガラッと変わったと思っている。私は3ヘクタールほど稲作しているが、出穂前後にはほとんど農薬を使わなかった。山田錦だけでなくコシヒカリにもやらなかった。それでも山田錦は「特上」は無理でも、「特」は普通に取れていた。それが平成26年頃にはカメムシで全然駄目になってしまった。コシヒカリは自分で販売しており、お客様から苦情が入った。それでも農薬を減らしたいという気持ちはあったが令和になってからはもう無理だった。カメムシはコシヒカリにつくときと山田錦につく場合があるようで、令和2年は山田錦が駄目だったが、去年は山田錦は大丈夫だった。農薬も農協は2回まけと言う。出穂の10日から15日ぐらい前に1回、出穂後に穂が出揃ったときにもう1回まけと言う。山田錦は1回で、2回目はまかななかったが「特上」が採れた。いろいろなカメムシがいるみたいで、コシヒカリが好きなカメムシと山田錦が好きなカメムシ、あるいはわせにつくときと、おくてにつくときとある。そのあたりを見極めながらやっていかないと仕方がないと思っている。

農薬はしない方がいいに決まっているから、私もずっと農薬をせずに、除草剤は使ったが、出穂後のブラシンとか殺菌剤、殺虫剤はせずにやっていた。それが駄目になったからかけているが、今でもブラシンはほとんどかけてない。土壌にはいろいろな良い微生物や菌がいることはわかっており、殺菌剤はそれを一緒に殺してしまうから。

「環境保全型農業直接支払交付金事業」のチラシが農家に配られている。緑肥栽培で、農薬や化学肥料を5割以上減らささいということに取り組もうと思っている。レンゲを11アールほどの田んぼに、試験的にやってみて増やしていこうと思っている。今はせいぜいこのレベルじゃないかなと思う。レンゲかヘアリーベッチというマメ科の緑肥ぐらいが今は限度じゃないかと。上手くいったら1ヘクタールくらいに、コシヒカリ全部をレンゲ米にしようかなと思ったりもしている。そういう取組から私はスタートしていきたい。なかなか無農薬は怖いので、どこまで取り組めるかわからないが、そういう気持ちでいる。

だから、議会としてもこれをPRするよう求めている。チラシ配布だけでは取り組んでもらえない。市は実際の方法等の情報提供をしっかりとやっていくべきで、市の農政課は、本当はそれが仕事なんじゃないかなと思う。そういうところを強く申入れするが、皆さん方も一人一人「これええねんで」ということを広めていってもらえないのかと思う。

【出席者】 個人的なことだが、自宅で乾燥や精米（粳摺り）までしているのか。

### 【大畑委員】

乾燥、糲摺り、調整、全部自分でやっている。

### 【出席者】

技術的なことを言うと、実際山田錦を出荷している担当の酒造会社へ営農指導に行っているが、やはりカメムシにやられてしまって等級がガクンと下がる。三等以上でないと日本酒にできないから非常に損失が大きいので、カメムシは等級を2ランク下げる。

### 【出席者】

有機農業、あるいは農薬を使わない栽培をしていると虫が湧いて、それが周囲の農地に飛んで行って悪さをするという事はない。逆だと思う。有機栽培をしているところで増えた虫が、農薬を使っているところに飛んでいくはずがない。私は何度も経験しているが、私の地区でも航空防除ヘリコプターで農薬散布をしているが、航空防除の翌日の朝、私の田んぼの30センチメートルほど上を本当に数えられないほどのトンボが飛んで、ツバメが飛び回っている。航空防除をして農薬をまいたために虫が安全なところに逃げてきている。これは何度も実証できると思うが、有機農業をやっているところには虫がたくさんいて、それが他の農薬を使っている農地へ飛んでいくということはない。むしろ農薬を打つから有機農業の農地へ虫が来る、安全だから。

ただ、カメムシは違う。有機農業、有機でないに関係なく、特に周囲が山であればそこにカメムシが巣を作り暖冬の影響で越冬して、早場米のところに来る。カメムシは一旦コシヒカリのところに来ると、そのコシヒカリを刈り取った後はその圃場の近くの草むらに逃げ、殺していないので隣の圃場に行く。カメムシが増えると周りの圃場に悪影響を与えることはわかった。それで、私はコシヒカリの栽培をやめた。それしか手がないから。カメムシを何とか防除する方法がないのかと思い、いろいろと文献を探して読んだが、なかなか効果的なものはなかった。

### 【大城戸委員】

資料の加東市令和7年度オーガニック関連予算案の中で、「市内小中学校への有機農業出前講座」は総務文教常任委員会の所管になるので、農政課を通してお願いする形になるかと考える。

有機農業に関する有益な技術、新しい情報等を農家の方に知っていただくセミナーを、加東市内の全農家対象に何回か行うなどは議員として農政課にもっと力を入れてほしいと言えると思う。3年間しか補助金を国が出さない中で、どこまで根付くかはわからないが、議員として働きかけたい。

### 【出席者】

農薬については、イチゴは59回まで農薬使用が認められている。そこから減農薬をするか。兵庫県の認証食品であれば、59回から5割削減するか9割削減するか。有機農業の場合はゼロ。ゼロのイチゴが市場に出てこなくて当たり前。甘いものには虫は必ず寄ってきますから。

**【橋本委員】**

地域として取り組むことは、地域貢献や子供たちへ教育をしていくことである。環境問題についてはSDGsで2030年までの持続可能な開発目標がある。その意味でも、国や市行政は地域の課題、有機農業、オーガニックに取り組む役割がある。31の課題を分類し、オーガニックの良さを説明した内容があるともっといいなと思う。

**【出席者】**

我々はあくまで生産者という立場であり、市の教育、環境、商業などの部局とのネットワークで情報を共有しながら、それぞれができることをやっていくということが必要だと思っている。我々もいろいろなイベントを独自でやることで、生産者だけじゃなく消費者と繋がりを持ち、機会を捉えて我々の活動に理解を深めてもらいたいと思っている。

**【出席者】**

学校給食に関しては10年前に就農したときから野菜を出荷している。4年前から納品伝票に「有機」の文言を入れ、有機農産物として学校給食センターに納品している。給食の献立表にその日に使われているピーマンは「市内の有機農家が出荷した有機農産物を提供」と記載されたこともある。

**【出席者】**

環境保全型は兵庫県から実際に補助金的な要素で費用が農家に出ている。オーガニックの関係も同様になってくれればいいのだが。今のところ市の取組がないので早く体制を整えてほしい。

**【岸本委員】**

産業厚生委員会の委員として、有機農業の推進に係る取組について認識を深めることができた。

以上